

【編集元】民主党三重第2区総支部 衆議院議員中川正春事務所

E-mail: g03063@shugiin.go.jp

三重／〒513-0013 鈴鹿市国分町453-7

TEL:059-373-3933/FAX:059-374-3088

東京／〒100-8981 衆議院第一議員会館428号室

TEL:03-3508-7128/FAX:03-3508-3428

○小泉さん、国会が終わった気分

国会は、終盤を迎えました。沢山の議案が審議途中で、当初の与党の思惑とは随分違ったものになってしまったのですが、小泉さんは、どこ吹く風で「国会延長はなし」と、自民党国対の細田委員長に言い渡したようです。小泉さんにとっては、あと、アメリカに行ってブッシュ大統領に「ご苦労さん会」をしてもらうこと。7月には、サンクトペテルスブルグでのサミットに出席して有終の美を飾ること。こうした外交日程が最大の中心課題になっているのだろうと、周辺のマスコミもささやいています。

後半国会には、教育基本法改正案と憲法の改正手続きである国民投票法案の重要な2法案が衆議院に提案されました。私は、この二つの問題は、政党間でも対立をして政争の具にする問題ではないと思っています。国民の声をベースに、国会がリードしてコンセンサスを作ることです。

教育基本法の審議は、衆議院の特別委員会で各々の議員の得意分野を教育に繁栄させながら、中味の濃い面白い議論が続いています。自民、民主の法案がそれぞれ出ていますが、基本的なところで埋められない対立は、二つの法案の間には無いと見ています。今のところ、専門家の間では、民主のほうが少し評判がいい程度です。様々な分野を極めた人たちの話を聴く参考人質疑、地方などへも出向いて国民の声を聞く公聴会など100回以上は開いて、国民的コンセンサスを作ることが大切だと言っています。

国民投票法案は、これを憲法改正だけに限定した法案にするのか、それとも一般の議題も国民投票に付す道を開くのかの違いが、自民、民主にあります。話し合いを続けて妥協点を見出すことです。この国会会期中に採決などとんでもないことです。

○世界は、エネルギー戦国時代

ガソリンや石油製品の値段が上がってきました。原油価格が、数年前の30ドル台から、70ドル台に上昇しようとしていることが、世界の主要国のエネルギー戦略に大きな影響を及ぼしています。中国やインドのような巨大国家の急速な経済発展(中国は既に日本を抜いて世界第2位のエネルギー消費国)を支えるために、

彼らは、中央アジア、中東、アフリカの産油国に猛烈なエネルギー外交を展開しています。ロシアのシベリアからパイプラインを敷くのに中国は日本と競合し、アゼルバイジャンからの施設では、ロシアそしてヨーロッパへも影響を及ぼしています。そして、それは、イランの核開発に対する容認的な姿勢にも、現れています。

日本政府の資源エネルギー戦略は、最近、国内については、少しはっきりしてきました。京都議定書の環境基準を達成して、省エネを進める。原子力エネルギーを発電全体の40%で維持して、核サイクルを完結させる。脱石油で、天然ガスや自然エネルギーにシフトする。

いつの間にか、わが国の原発依存度は、40%台。感慨無量です。一方で、世界のエネルギー体系(世界全体のエネルギー配分システムと価額決定メカニズム)に対して、それを安定化させるために日本がどのように戦略を組んで働きかけるか。この視点は、相変わらず戦略なしです。アメリカまかせで、所与のものとして対応するだけ。これでは、日本は、ダメだと思っています。

○メタボリックシンドロームは、本当か。

メタボリックシンドローム。医療法の改正案が衆参の厚生労働委員会で議論されたときに、この話が本当か、それとも健康食品や医薬品会社のでっち上げか、大議論になりました。

内臓の周りに脂肪がまとわりついて、腹が出てくるまさに、私の悩みです。日本の男性で、胴回り85センチ以上、女性で90センチ以上の方は、糖尿病や循環器障害など病気にかかりやすいから、医療費を普通の人より沢山使う。法律で取り締まろう(?)と、言うわけです。

ところが、このことを何年も前から言ってきたヨーロッパやアメリカの学者は、よくよく調べてみたら、あれは、ウソっぽいと、最近になって言い出しました。にもかかわらず、日本の医療審議会の学者や、厚労省の役人が今、これを法案化してきたのは、どういう意図があるのか。

私も、特に85センチは、厳しすぎると思います。しかし、うちのかみさんは、もっと厳しいことを私に要求するので、困っています。